

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	・スタッフ全員で意見を出し合い、ユニットごとにまとめ、3ユニットの内容を検討し、事業所としての理念を作りました		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	・入居者さんそれぞれに対し課題を確認し、ミーティングや会議の場で具体的なケア内容について話し合い実施している		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	・2ヵ月に1度 運営推進会議を行い、家族、地域の方々包括に出席頂き、活動内容他報告し意見交換を行っています		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・町内会への加入 ・会議への参加 ・防災訓練に町会の方々にも参加してもらっている ・夏祭りのみこし(子供たちと親御さん)はゆうゆうが休憩所になり交流している		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・町会の総会への参加 ・町会行事(子供みこし、盆踊り)への参加 ・防災訓練の実施(町会参加)		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	・運営推進会議には町会、民生委員、地域包括支援センターなどの方々や家族に出席していただき情報交換をしている ・積極的に見学を受け入れている ・地域の方ができるだけ入居出来るよう取り組んでいる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に意見箱を設置しています ・苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員会の設置 ・意見・苦情があった場合職員にも周知し改善策を検討している 		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・面会の際には現況報告をしている ・毎月 月次報告書にて健康状態、日常生活の様子を伝えている ・ゆうゆう通信の発行 ・職員の異動等については随時伝えている 		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱の設置 ・家族と情報の共有が出来るよう面会時又は電話などで報告し、話す場を設けている ・契約にあたって苦情等の受付窓口を説明している ・運営推進会議での意見交換 		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のユニット会議、勉強会、研修会、毎日のミーティングでの意見なども都度検討し反映させている 		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・行事、緊急時及び必要に応じて職員人数の増員をしている 		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・異動・離職について最小限にするため、定期的に面談の機会を設けている ・異動が生じた場合、利用者への紹介はもちろんだが個別ケアの注意点など最優先に職員に伝え、対応には十分に配慮している 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		<p>悩みや不安な思いを表現できる職員もいれば、抱え込む職員もいるので更に改善されるよう職員側からも働きかけていきたい</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・本人と家族の意向を十分に聞き、ケアの必要性、方法などを提案し納得・安心できるよう努めている		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	・他者との距離感も密になるのでバランス、環境、対応する職員など十分に配慮している ・細かいことなど家族との連絡を密にし慎重に対応している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	・残存能力を十分に発揮できるようにアセスメント等は注意深く行なっている ・職員との信頼関係を構築し、一方通行にならぬ様配慮している		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・常に情報を共有し、グループホームで生活するうえで、家族の思いを考慮し、共に考えながら協力を仰ぎ、支えあい、家族との関係が続けられるよう努めている		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	・家族の思いは様々で、親密な関係を続けたい家族がいれば、距離を置きたい家族もいるなど対応、関係作りにはとても配慮が必要である ・それぞれの思いを十分に受け入れ支え合うことを大切にしている		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・面会・外出・外泊などは自由に行っている ・行きつけの美容院など、本人・家族の希望に応じて送迎等の対応をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 入居者同士の交流は自主性を重んじ見守っています 介入が必要なケースも多いので十分に配慮している 必要以上に介入せず、各自の社会性・協調性など十分に活用し引き出せるよう努めている 		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	<ul style="list-style-type: none"> 入院などで退去する場合、受け入れ先と十分に連携し、情報を提供しながら本人・家族が安心して過ごせるよう配慮している 		
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> バックグラウンドを十分に理解し、本人・家族との会話を大切に、様々な環境作りに努めている 希望や意向など表すことが出来ない場合は職員全員で様々な意見を出し合い検討し本人本位な方向性を見極めている 		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 本人の希望を重視している できるだけ詳しい情報を収集 家族との連絡は密に行っている 		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録にはケアプランを反映させ、変化や新たな課題を確認し状況に応じ対応するよう努めている 		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	<ul style="list-style-type: none"> 職員は入居者さんの小さな変化・言動等を見逃さず、対応について都度検討し実際のケア、介護計画に反映している 本人の思いを尊重しながら、家族と情報を共有し、医師含め各関係部署と十分に連携し検討している 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・ケアプランを把握し、介護記録に十分に反映させモニタリング・アセスメント等、状況により現況に即した計画を作成している		疾病や怪我などにより現況が日々変化する場合、新たな見直しの時期が難しくなることが多く、その間の対応は変化が多様で実際には介護計画の書面としては反映できないこともある 出来るだけ反映する事ができるよう取り組んでいきたい
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	・日々の小さな変化や実践内容と結果は、毎日の介護記録に記入し、発した言葉を大切にケアプランと照らし合わせている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・家族・本人から要望があった場合、柔軟な支援をしている ・通院、外出先への送迎等		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・運営推進会議には町会長・民生委員などに参加してもらっている ・詩吟・地域の子供たち、ボランティアの受入 ・消防・町会と連携した防災訓練(年2回)		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	・本人・家族からの要望はありません		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	・現在該当ありません ・必要に応じて共同していく準備はある		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前からのかかりつけ医から情報収集を行い、本人・家族の希望により継続して医療を受けられるよう支援している ・受診の際には都度本人・家族の希望により受診先を決めています 		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門医のいる協力医療機関と連携している ・本人・家族より相談があった場合、主治医から意見を求め必要に応じ専門医等へ紹介している 		
45 かかりつけ 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職員を確保しています ・顔なじみの看護職員が健康相談に同席してくれるので、安心して支援を受けられる 		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院の際には介護添書を記入し、継続して同様のケアを受けられるよう努めている ・回復状況を確認し、退院後の生活がスムーズに行えるよう情報収集に努め、出来るだけ早い時期に退院できるよう努めている 		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居後早い段階で本人・家族から終末期について要望・希望を確認し覚書を交わしている ・事業所としてできるケアの内容を覚書で説明している ・主治医と連携し考えられる治療方針など説明している 		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と連絡を密にし、主治医の指示のもと本人・家族の希望に沿えるよう配慮している ・支援の内容についてチームで話し合い、できる最大のケアを提供できるように努めている 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	・住み替え先の関係者と十分な話し合いや情報交換を行い、継続した生活が出来るよう努めている		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	・個別ケアに配慮し、排泄に関することや混乱を招くような対応には十分注意している ・プライバシー保護を徹底している(言葉・文書)		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	・個々に表情や言動を観察しタイミングよく声かけを行い、手を出しすぎず自己決定の場を作りながら、常に自分本位で過ごすことができるよう努めている ・説明し納得したうえで自己決定出来る様になっている		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・基本の流れはあるが個人の習慣や生活歴を考え、個別に時間の流れを作れるようにしています		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	・自分で選ぶことが難しい場合、二択などで選びやすく自己決定出来る様にしている ・おしゃれに関する話題で話をふくらませたり、本人の好みや思いを探るきっかけ作りとしている		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	・入居者の体調、好みなどを考え献立作りをしている ・行事食・誕生会・季節食など入居者さんから希望を聞き、好みや思いを大切に楽しく食事出来る様にしている ・調理等は出来る事を分担し、自主性・協調性を重視し役割として自信につながるよう努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの好みを把握し希望する飲み物を提供している 種類を多くし、温度や形状に配慮している 得意分野で自信がもてるよう、おやつ作りなど、ある程度任せて見守るようにしている 		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> 排泄パターン表を記入し時間毎、表情や言動など観察し声かけを行い、トイレで排泄できるように努めている 毎日下着交換を促すことで失禁状態や排便の有無をチェックし、排便コントロールしている 		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> 入浴が好きな方に関しては、希望に応じ毎回入浴してもらっている 母体の上田病院の大浴場での入浴を行なっている 		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> 個々に生活リズムが違うので、居室やリビングなど自由に休息出来る様にしている 自分の意志で休むことができない方は体調、時間で座る場所を変えたりベッド・ソファなどで臥床介助している 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 家事・作業に関わることで自分の居場所や人との関わりができ、自然に助け合って生活する力を見出ししている できない事に重点をおかず、出来ることを継続することで自信につなげるようにしている 		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> 紛失時のことも考え、家族とも相談し所持する金額を決めている 買い物希望するときは納得・満足できるよう同行 希望により預り金の中から買い物している 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に本人の行動に同行し見守っている ・自分ひとりで外出できない方は、日光浴・散歩や買い物など誘い徒歩・車椅子・車で出かけている ・畑や草取りなど 		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と外食・墓参り・身内の集まりなど、自由に外出しています ・希望に応じ行きつけの美容室などへ送迎している ・馴染みの行事他、ぶどう狩りなど毎年出かけている 		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・希望があればいつでも支援している 		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・面会時間は自由で、いつでも気軽に訪問してもらっている ・面会の際はリビング・居室など自由な場所で過ごしてもらっている ・気軽に訪問してもらえるよう、スタッフ側から声かけし情報交換や近況報告でコミュニケーションをとるようにしている 		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組み、「身体拘束廃止委員会」を設けている ・玄関の鍵は夜間～早朝を除き開けている ・入居者の行動を常に見守り、外出する際は危険でない限り自由に外出してもらい見守っている ・車椅子の方も常に側で見守ることで拘束せず過ごせる 		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会・ミーティング等 日常的にも拘束について話し合う場を設け、十分理解するよう努めている ・日中は玄関及びユニット間もすべて自由に行き来出来るよう鍵はかけていない 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> 各自がどこで過ごしているのか目配りし、職員同志声を掛け合い見守っている 居室・トイレ・風呂場などでは特にプライバシーに配慮し、失礼にあたらぬようにしている 夜間は基本2時間毎に見廻り、状況に応じて30分～1時間など見廻る時間も柔軟に対応している 		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	<ul style="list-style-type: none"> すべてスタッフの見守る中使用可となっている 刃物(はさみ・包丁など)は鍵をかけて保管している 縫い針は本数チェックしリビングで使用している 洗剤等は施錠し保管している 		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 事前に防止できるような対策や、実際の対応方法を勉強会・ミーティングでシュミレーションしている 日々の観察・記録・情報の共有を円滑に行うことで事故防止につなげるよう取り組んでいる 		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 応急処置のマニュアルを作成 マニュアルがあってもとっさの時に対応できないと意味がないので、申し送りの時などに実際にシュミレーション体験し訓練している 		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> 毎年2回日中、夜間想定で防災訓練を行っている 入居者・町会・消防の参加 非常口・消火器の位置・火災通報装置の操作手順やマニュアル等作成しシュミレーションしている 		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	<ul style="list-style-type: none"> 家族とは常にコミュニケーションをとり、状態に応じた起こり得るリスクについて都度説明し話し合っている 本人・家族の思いを大切に、医師等の助言のもと、ケア内容やリスクについて十分に話すことで信頼関係が保たれている 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調理器具の塩素系漂白剤での毎日の消毒 台布巾・食器用布巾も枚数を用意し使いきりで消毒 食材は週3回の買出しで、使い切り、常に新鮮なものを使用 調理済みは2時間で破棄 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 玄関前は段差なく歩行・車椅子共にスムーズ 玄関前にベンチを置き憩いの場となっている 玄関前は広く安心してくつろぎ出入りできる 		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> カーテン・ブラインド・天窓・吹き抜けなど工夫あり調節 季節の草花・畑の野菜作り・季節ごとに雛人形・五月人形など飾り季節を感じられる工夫 洗濯物など目に付くところにあることで自然に家事参加と結びついている 		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 皆で過ごす食卓、リビングのソファでは複数で会話や食事、家事、また大切なコミュニケーションの場である 離れたソファ・椅子では思い思いに自由に過ごし昼寝もしている 廊下のソファは歩きながら休憩したり、自由な空間です 		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本人・家族と十分に相談しなじみの家具や装飾品、仏壇等持ち込んでいる 危険でない限り、居室内の配置は本人・家族にまかせている 体調・身体能力に応じ、家族と本人含め相談し模様替えしている 		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 室温計をチェックし暖房調節・換気をこまめに行っている 窓からの風は「寒い」と感じる事が多いので、直接あたらぬようロスナイ・天井ファンを回し調節、工夫している 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	変化を見落とさず柔軟に対応できるよう、情報共有と話し合いを繰り返している
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	家事をしながらおしゃべりしたり、お茶などを飲みながら触れ合い過ごす
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	本人の意志・体調により時間の配分している 行事等の参加の自由 食事時間の柔軟性
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	できることを自信を持ってやることで、自分の居場所や役割、楽しみを見つけることで元気な様子が見受けられる
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	希望により、また働きかけにより美容院・買い物・飲食など家族・職員と出かけている 但し、希望訴えが出来ない方もいる
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	月2～4回の健康相談の実施 母体である医療法人との迅速な連携
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	自立を促しながら、他者との協力、又互いに刺激しあうことで信頼関係、馴染みの関係が確立 手を出し過ぎず、時には同等な立場で接し、自分を感じてもらうことを大切にしている
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない	面会・電話・通信などで情報共有を密にし家族からは温かい言葉又はクレーム・相談など様々な言葉を頂いている 比較的オープンに話しのできる環境です

サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない	家族の面会は多く、ほぼ毎日のように来る方もいる 毎週の詩吟ボランティア 地域の子供たちの訪問
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない	町内関係者・民生委員・家族・包括の方々が集まる機会増 地域行事への参加やボランティア・近所の方からの寄贈品もある
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2 / 3くらいが <input type="radio"/> 職員の1 / 3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	悩み、ストレスなど早期に解決するよう話し合い、面談など行なっている 入居者さんへの対応で行き詰ったときなど職員で声をかけ合い、チームで対応する
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	職員の地道な働きかけ、チームワークで自発的な言葉が増え元気に過ごしている方が多い 食事の様々な工夫で健康状態・身体能力が改善されている
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2 / 3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1 / 3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	コミュニケーションを積極的にすすめていく事で信頼関係が深まっていると考える ケアの充実には、家族との関係が重要なので面会が多いのも成果と考える

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

3ユニットのグループホームです。入居者、職員共に地域としては人数が多く、様々な場面で互いに助け合う環境があります。入居者さんは自由に行動し、他ユニットでのドライブ、買い物などにも参加でき、機会が増えます。グループホーム全体で27名の入居者さんを見守っています。